

1 貯蔵花粉の発芽試験を実施します

	受付月日	受付時間	受付場所	結果の報告
(旧)第1選果場管内	3月15日(火)	午前9時~10時	梨会館	受付の 2日後 に梨会館入り口に貼り出します(射水市は別途対応)。
(旧)第2選果場管内	3月16日(水)	午前9時~10時	梨会館	

※発芽試験の24時間前に、試験に使う分のみを冷凍庫から取り出し、直射日光と暖房を避けて保管・準備してください。

2 病害虫対策について

(1) 黒星病対策 (落葉処理・芽基部病斑除去)

①落葉処理の実施面積率は、現在95%程度となっています。

②なお、昨年10月に調査した「幸水」の黒星病秋型病斑葉発生率は10%で、令和元年、2年(いずれも2%)よりも高く、また11月には14%と発生率が上がっていたことから、今後の黒星病の発生に注意が必要です。

③3月から、落葉からの孢子飛散が始まるので、2月末を目途に、処理後の園地内(特に園地周囲、幹元)や周囲の側溝などに葉が原形のまま残っていないか、確認を行って下さい。図1のように落葉処理が不十分な場合は、再度落葉処理を行って下さい。



図1 落葉処理が不十分な園地例
ロータリーの走行速度が速く、爪も深すぎて、葉が原型のまま浮き上がっている

③りん片脱落期に枝をふるってもりん片が落ちない芽や枯れたりん片が残っている芽は、黒星病罹病芽の恐れがあるので切除して処分して下さい。

④黒星病の芽基部病斑は見つけ次第、摘み取って園外に持ち出し、適正に処分して下さい(特に受粉前に作業の徹底を図りましょう)。

※黒星病対策は、平成28年1月に配布された「呉羽梨黒星病対策指針」や「黒星病Q&A集」、平成31年1月に配布された「落葉処理マニュアル」なども参考にの的確に取り組ましましょう。

(2) 農薬防除の実施について

昨年、カイガラムシ類、ハダニ類が多かった園地を対象とした特別防除です。主枝先端や短果枝群(しょうが芽)、若木の主幹~主枝部分などに多く見られる園があります。かかりムラの無いように散布してください。

散布時期	薬剤名	主な対象害虫	濃度	10a当たり散布量	防除実施日
2月下旬 (休眠期)	機械油乳剤 95	カイガラムシ、サビダニ、 ハダニ類及びその越冬卵	20倍	200~300 リットル (十分量)	

【注意事項】

- ①機械油乳剤 95 は、樹勢低下が懸念されるので、樹勢が弱っている樹や連年での使用は控えてください。
- ②散布は暖かくて風のない日を選んで行ってください。
- ③発芽後の散布は薬害の恐れがあるので、必ず2月中に散布してください。

(3) 耕種的対策の実施

粗皮の隙間にはナシヒメシンクイやハダニ類等が越冬しています。粗皮削りを行うとともに、輪紋病のイボ皮も削り落しましょう。

3 誘引・花芽整理

(1) 誘引 (棚付け)

- ①結実不良により、徒長枝等の発生が多かった園がありますが、側枝間隔は40cm程度を基準に、枝が交差しないように配置するとともに、弓なりにならないよう、棚に水平に誘引しましょう。
- ②側枝バランスの目安として、「幸水」は長果枝50%、2年生側枝30%、3年生側枝20%、「豊水」は長果枝と2年生以上の側枝の比率が1:2程度になるよう、古い側枝を積極的に更新しましょう。
- ③予備枝は、優良な長果枝育成に重要であるとともに樹勢維持強化にも役立つので、できるだけ多く配置するように心がけて下さい。

(2) 花芽整理

短果枝や短果枝群(しょうが芽)上に複数ついている花芽の中から余分な花芽を整理することで、開花・結実時の貯蔵養分の消費が少なくなるのと同時に、その後の摘蕾、摘果作業の省力化につながります。また、薬剤の透過性も向上し、黒星病やカイガラムシ類等の防除効果が高まります。

整理方法は、図2のとおり、側枝の外側を向く充実した花芽1個を残し、その他は果台を残して花芽をかき取ってください。台座が長い短果枝群は基部近くまで切除してください。また、下芽、弱小花芽は他に十分花芽がある場合には切除してください。

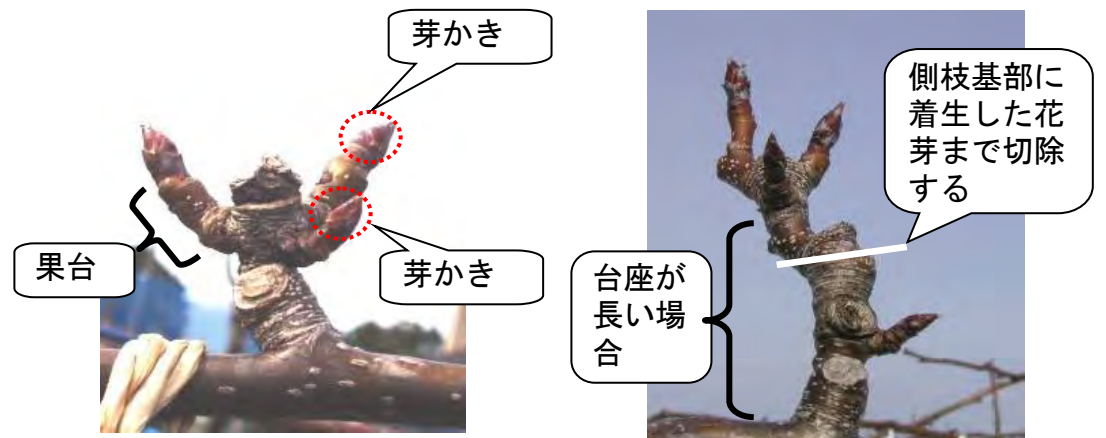


図2 花芽整理の例

4 凍害対策

苗木～4年生程度までの樹は、発芽前頃(3月中下旬～4月初旬頃)から急速に耐凍性が弱まり、抵抗力が低下します。凍害は、日中の気温が高くなり(15℃以上くらい)、朝の気温が-2～-3℃程度まで下がる時期に発生しやすくなります。

凍害を受けると苗木や若木は樹勢低下や枯死につながる場合があります。そのため、下記の凍害対策を行ってください。

(1) アルミ蒸着シートの巻き付け (日中の温度上昇の抑制: 図3)

主幹部の地際から80cm程度の高さまで、アルミの面を外側にし巻き付ける。使用する資材は厚さ1～2mm程度の緩衝資材の片面にアルミ蒸着されているもの(ホームセンター等で購入可)。

(2) わら巻き(保温: 図4)

上記と同様に主幹部にわらを巻く。まとめて仮植してある場合は、コモ等を巻いて保温に努める。

※霜害対策については、今後ご案内します。



図3 アルミ蒸着シートの巻き付け



図4 わら巻き

5 春肥の施用

春肥は3月中下旬頃、下記を目安に施用しましょう。

<10a当たり施用例>

例1 BM有機果樹専用(8-7-7) 100kg(成分量 窒素8.0kg、リン酸7.0kg、カリ7.0kg)

例2 なのはな梨配合(7-7-3) 100kg(成分量 窒素7.0kg、リン酸7.0kg、カリ3.0kg)

6 開花予想

1月の平均気温は2.0℃(平年比-1.0℃)と低温となっており、2月に入っても平年より低温傾向です(2月10日までの平均気温は1.7℃(平年-1.0℃))。

2月10日現在の開花予想日は右表のとおりで、前年よりも遅く、ほぼ平年並みの予想となっていますが、今後の気温に大きく左右される可能性があります。

最新の情報については今後発行する特報や梨メールでご確認ください(梨メールは3月初旬から配信予定です)。

表 2月11日時点の開花予測

品種名	令和4年予想	
	開花始め(前年比)	満開日(前年比)
幸水	4月18日(11日遅い)	4月22日(11日遅い)
豊水	4月15日(13日遅い)	4月18日(12日遅い)
あきづき	4月15日(9日遅い)	4月18日(10日遅い)
新高	4月12日(13日遅い)	4月15日(13日遅い)

※今後の気温が平年並みに推移した場合

7 農業サポーターがお手伝いします

平成18年よりサポート活動を開始して以来、農業者の皆さまのご支持を得て、梨の摘果作業などにおいてサポート活動を行っています。昨年は19名の梨生産者の方がのべ993人のサポーターを活用されています(主な活動内容:人工受粉、摘果、収穫等)。

農繁期に人手が足りずお困りの方や、年間を通じてサポートが必要な方は、下記までご相談ください。

【お問い合わせ】 特定非営利活動法人(NPO 法人) 里山倶楽部(サポート業務窓口; tel.076-411-4401)
富山市農林水産部営農サポートセンター (tel.076-429-4504)

8 苗木の新植、老齢樹の改植、園地整備などに補助事業が活用できます

未耕作園地への苗木の新植、老齢樹園地の改植、小規模園地整備(傾斜の緩和、排水路の整備など)などに、国補助事業「果樹経営支援対策事業」が活用できます。

なお、新植、改植は事業計画承認後に苗木を購入すること、地続きでおおむね2アール以上であること、小規模園地整備は地続きでおおむね10アール以上であることなど、事業を行うための要件があります。事業活用をご検討される方は、3月16日までに下記までご相談ください。

【お問い合わせ】 富山県富山農林振興センター担い手支援課園芸振興班 担当:南條 (tel.076-444-4523)

梨メールを是非活用下さい

本年も防除時期の案内や黒星病の発生リスクなどについて情報提供しますので、積極的な活用をお願いします。新たに希望される方、メールが届かなくなった場合など、下記のアドレスへお名前、電話番号と、「梨メール希望」と入力してお送り下さい。

<送信先メールアドレス: masanobu.nanjo@pref.toyama.lg.jp >

【お問い合わせ】 富山県富山農林振興センター担い手支援課園芸振興班 担当:南條 (tel.076-444-4523)